

〔漢-1〕,〔総-11〕 現行の当用漢字音訓表について

検討すべき問題点の一例

現 (方針・注意事 項など)	行	例	説	明
1 異字同訓の 整理		みる……………見	看・視・診・閲・覧・観などには「みる」の訓は認められていない。	
		おもう……………思	想・念・懷・憶などには「おもう」の訓は認められていない。	
		みち……………道	路・徑・途などには「みち」の訓は認められていない。	
			〔例外〕	
			くら……………倉・蔵	
			つくる……………作・造	
			はかる……………測・計・量・図 など。	
2 同字異訓の 整理		主……………ぬし	「あるじ・おもに」は認められていない。	
		入……………いる	「はいる」は認められていない。	
		戦……………たたかう	「いくさ・おののく・そよぐ」は認められていない。	
3 かな書きに すべき語に 用いる訓の 整理		副詞……………先	「さき」を認め、「まず」は認められていない。	
		接続詞……………併	「しかし」は認められていない。	
		助動詞……………如	「ごとき」は認められていない。	
		助詞……………程	「ほど」は認められていない。	
			〔例外〕	
			再…ふたたび, 全…まったく	
			最…もっとも, 必…かならず など。	
4 古訓・解釈 訓の整理		朝	「あさ」を認め、「あした」は認められていない。	
		集	「あつまる」を認め、「つどう」は認められていない。	
		治	「おさめる」を認め、「なおる」は認められていない。	

現 (方針・注意事 項など)	行	例	説 明
5 熟字訓の整理	危		「あやうい」を認め、「あぶない」は認められていない。
	魚		「うお」を認め、「さかな」は認められていない。
	明日 …… あす		音訓表の「使用上の注意事項」には、「つぎのような熟字は、使ってさしつかえない。」として、 木(き)→木立(こだち) 目(め)→目深(まぶか) 金(かね)→金物(かなもの) 雨(あめ)→雨戸(あまど) 春雨(はるさめ) 何(なに)→何時(なんどき) 十(ジュウ)→十銭(ジッセン) 合(ゴウ)→合併(ガッペイ) 皇(オウ)→天皇(テンノウ) 寸(スン)→三寸(サンズン) 発(ハツ)→出発(シュツパツ) 夫(フ)→夫婦(フウフ) の例が掲げられている。 ----- 次のような熟字は使えるのか使えないのか、解釈にゆれがある。 海原→うなばら 交代→こうたい 街道→かいどう 祝言→しゅうげん 合戦→かつせん 時計→とけい 句読点→くとうてん 端数→はすう 景色→けしき 真赤→まっか
	海女 …… あま		
	田舎 …… いなか		
	大人 …… おとな		
	昨日 …… きのう		
	五月雨…さみだれ		
	煙草 …… たばこ		
	梅雨 …… つゆ		
	二十 …… はたち		
	土産 …… みやげ		
	などの使い方は認められていない。		

〔漢-6〕, 〔総-12〕 当用漢字の音訓使用度数に関する資料

- 1 この資料は、国立国語研究所報告22, 「現代雑誌九十種の用語用字」(第二分冊)に基づいて作成した。
- 2 この資料は、上記の報告から、次の条件に該当する当用漢字(82字)を選び出したものである。すなわち、当用漢字音訓表に認められていない音訓(表外音訓で使われており、かつ、そのうちの、少なくとも一つが15回以上使われているもの。
(なお、この表では、15回以上のものには▲印をつけ、また使用語例を参考のため掲げたものもある。)
- 3 選び出された82字について、上記資料に表われたすべての音訓を、その使用度数とともに示したが、人名・地名・特殊なよみ方(熟字訓・あて字の類)に用いられた音訓は省略してある。
- 4 見出し漢字は、当用漢字音訓表に認められた音によって、五十音順に、音・訓は音を先に訓をあとにしてそれぞれ五十音順に掲げた。

〔表の見方の説明〕

見出し漢字 ○印は教育漢字であることを示す	音訓表にある音訓	▲印は使用度数が15回以上のもの	15回以上表われた音訓の実際の使用例
度 [○]	[]印は表外音訓		
720	[タク]13/1 [ト]2/1	ド671/38 [たい]5/2 [たび]23/3 ▲	度々 14 度(その～) 度重なる
総使用度数	斜線の右下の数は、その音・訓で使われた語の異なり語数 斜線の左上の数は、その音・訓で使われた語の延べ語数		

したがって、[タク]13/1とあるのは、「度」を「タク」という音で使ったのは、「仕度」の1語であり、その延べ語数は、13回であることを示している。

以°	423	イ402/10 ▲[もって]16/1	
為	84	イ44/6 ▲[ため]26/1	
下°	1038	カ277/46 ケ95/29 [おりる]13/3 ▲[おろす]20/6 くださる120/1 くだす6/1 くだる22/8 さがる35/14 さげる58/14 した263/37 しも15/6 もと12/1	
家°	876	カ515/41 ケ93/14 いえ209/5 ▲[うち]19/1 や22/7	
華	72	カ27/10 ▲[はな]25/3	華々しい 14 華やか 10
画°	562	ガ402/26 カク132/5 ▲[え]21/3 [えがく] 5/1[かざる]1 [かく]1	画 19 油画 さし画
我°	119	ガ27/6 ▲[わが]24/2 われ57/2	我が 22 我儘
開°	331	カイ180/36 ▲[あける]23/5 [あく]5/1 ひらく119/12	
街	70	[カイ]10/1 ガイ25/8 ▲[まち]35/5	街 26 街角 街中
格°	191	カク174/27 ▲[コウ]17/2	格子 16 格間
乾	48	カン17/5 [ケン]1 [いぬい]1 [かわかす]4/1 ▲[かわく]18/2 [ほす]5/3	
眼°	272	ガン37/18 [ゲン]5/2 [ま]2/1 [まな]3/1 まなこ2/1 ▲[め]221/13	眼 196 眼鏡 片眼
球°	175	キュウ152/29 ▲[たま]17/5	球 13 球捌き ガラス球
居°	162	キョ 32/13 いる97/18 ▲[おる]29/1	
許°	91	キョ 24/5 [コ]1 ▲[もと]15/6 ゆるす48/1	～の許 足許 国許
挙°	79	キョ 56/14 [あがる]1 ▲[あげる]22/2	挙げる 20 挙句

魚	63	ギョ 26/9 うお15/4 ▲[さかな]21/4	魚 16 魚屋
経	390	キョウ 16/8 ケイ 327/17 ▲[たつ]22/1 [たて]1 へる15/1	
兄	94	キョウ 23/1 ケイ 6/4 あに48/3 ▲[にい]15/1	
空	251	クウ 148/28 [あく]12/7 [あける]2/1 ▲[から]18/8 [すく]1 そら58/11 [むなしい]3/1	空 空シャッター 空っぽ
故	100	コ 56/11 [せい]1 [ふる]2/1 ▲[ゆえ]18/1	
固	59	コ 27/12 ▲[かたい]19/1 かたまる4/2 かためる9/1	
後	1076	ゴ 597/25 コウ 87/28 ▲[あと]68/10 うしろ250/21 [おくれる]2/2 のち50/2	
御	261	ギョ 8/7 ゴ 205/11 ▲[お]28/3 おん8/4 [み]1	
工	368	ク 32/4 ▲[グ]16/1 コウ 316/28	工合 16
際	214	サイ 199/7 ▲[きわ]15/7	際立つ 手際
撮	79	サツ 53/1 ▲[とる]26/4	撮る 23
指	218	シ 127/10 ▲[さす]27/10 ゆび64/10	(将棋を)指す 指図 目指す
支	169	シ 129/19 ▲[ささえる]19/2 [つかえ]6/1	
姉	69	シ 10/1 あね34/2 ▲[ねえ]18/1	
射	71	シャ 46/10 いる3/3 ▲[うつ]16/5 [さす]6/5	射つ 射ち合い 射ち落す
手	1466	シュ 372/34 ▲[ズ]26/1 た10/4 て1029/161	上手 26
主	602	シュ 525/56 ス 6/1 [あるじ]2/1 ▲[おも]18/2 ぬし48/10	主(な・に)17 主だつ

出。	2107	シュツ505/70 スイ1 [いだす]11/2 ▲ [いず]20/6 だす663/101	
		でる(で)865/76	
処。	147	シヨ 84/13 [ど]1 ▲ [ところ]24/3	処 20 処で
女。	1129	ジヨ 688/44 ニヨ 6/3 ▲ [ニヨウ]21/2 [おな]5/1 おんな372/17	
		[め]4/3	女房20
如	89	ジヨ 6/3 ニヨ 4/2 ▲ [ごとし]47/1 [しく]2/1	
丈	168	ジヨウ50/5 ▲ [たけ]108/13	丈 21 スカート丈 18 背丈
人。	3196	ジン1031/109 ニン782/39 ▲ [と]17/6 ひと886/34	商人 仲人 玄人 盗人 素人 若人
遂	26	スイ3/2 ▲ [つい]17/1 とげる4/1	遂に 17 (裁縫用語)
接。	156	セツ112/20 [つぐ]1 ▲ [はぐ]43/12	接ぐ 12 接ぎ合せる 9
先。	498	セン275/28 さき198/33 ▲ [まず]23/2	先ず 20 一先ず
然。	340	ゼン298/41 ネン15/1 ▲ [しか]24/4	然し 18 然り 然るべき
想。	237	ソウ218/24 ▲ [おもう]19/5	想う 想い出
他。	276	タ212/24 ▲ [ほか]63/2	他 60 他ならない
体。	563	タイ463/66 テイ3/1 ▲ [からだ]52/2	体 50 体つき
代。	765	[タイ]10/2 ダイ476/48 かえる4/4 かわる42/4 ▲ [しろ]82/11	縫代 63 代物 苗代
		よ3/2	
弟。	77	ダイ13/1 ▲ [デ]18/1 テイ8/6 おとうと34/2	弟子 18
達。	243	▲ [ダチ]134/2 タツ77/12 [ダツ]2/2	～達 111 友達 23

探	82	タン35/9 [さがす]38/9 さぐる6/3 [たずねる]2/1	探す 25 探し出す 親探し
団	207	ダン184/23 [トン]16/1	布(蒲)団 16
致	55	チ31/8 [いたす]24/1	
茶	147	[サ]39/5 チャ102/37	喫茶 30 茶菓 茶道 中(接尾) 29 心中 年中
中	1825	[ジュウ]40/6 チュウ896/110 [うち]17/1 なか555/23	中(の～ する～) 17
頂	63	チョウ33/8 いただき1 [いただく]29/2	
程	179	テイ128/8 [ほど]51/7	程 36 先程 成程
度	720	[タク]13/1 [ト]2/1 ド671/38 [たい]5/2 [たび]23/3	度々 14 度(その～に) 度重なる
怒	65	ド14/9 いからす1 いかる14/2 [おこる]36/1	
頭	282	[ジュウ]2/2 ズ10/5 [ド]4/1 トウ106/39 あたま131/8 [かしら]18/5 [かみ]1	
等	259	トウ184/17 ひとしい6/1 [ら]64/2	等(これ～, わし～)59 何等
独	120	ドク90/16 [ひとり]15/6	独り 9 独り言 独り占め
入	1022	ニョウ269/56 いる140/39 いれる362/49 [はいる]245/2	入る 241 入りこむ
判	263	ハン221/22 [ホウ]1 [わかる]41/2	判る 40 判らず屋
描	109	ビョウ10/4 えがく48/3 [かく]51/4	描く 48 描き入れる
父	243	フ31/11 ちち140/4 [とう]29/1	
部	810	ブ621/51 [へ(べ)]115/9	部屋 103 大部屋

風 [○]	357	▲ [フ]48/12 フウ181/53 かぜ(かざ)83/19	風呂 21 風呂屋 風情
分 [○]	1458	ブ160/4 フン102/3 ブン1072/86 ▲ [わかる]60/2 わかれる9/4 わける44/19	分る 59 分らず屋
文 [○]	469	ブン331/52 ▲ [モ]19/2 モン67/16 [かざる]1 [ふみ]4/2 文字 18	
米 [○]	217	ベイ41/14 マイ5/3 こめ24/6 ▲ [めえとる]22/1	
便 [○]	95	ビン18/5 ベン54/13 [すなわち]1 ▲ [たより]22/1	
歩 [○]	253	▲ [フ]30/1 ブ18/4 ホ79/14 あゆむ12/3 あるく108/9 (将棋の)歩 30	
母 [○]	290	ボ47/18 [モ]3/3 [おも]4/1 [おや]12/2 ▲ [かあ]53/1 はは149/5	
抱	89	ホウ10/4 ▲ [いだく]15/1 [かかえる]12/4 だく50/9	
訪	81	ホウ17/6 おとずれる30/2 [おとなう]1 ▲ [たずねる]30/1 [とう]1	
木 [○]	461	ボク10/10 ▲ [モ]21/1 モク23/13 き75/34	木綿 21
毎 [○]	166	マイ145/15 ▲ [ごと]21/2	～毎に 20 年毎
陽 [○]	110	ヨウ58/13 ▲ [ひ]40/9	陽 25 陽あたり 夕陽
欲 [○]	79	ヨク45/11 ▲ [ほしい]30/1 ほっする4/1	
抑	25	ヨク8/3 ▲ [おさえる]15/2	
利 [○]	412	リ344/34 [きかす]4/1 ▲ [きく]18/6	利く 12 左利き 利き足
例 [○]	166	レイ129/22 ▲ [たとえる]37/2	例えば 32 例え(～しても)

〔漢-12〕 熟字訓に関する資料

- 1 この資料は、国立国語研究所報告 22「現代雑誌九十種の用語用字」(第2分冊)に基づいて作成した。
- 2 この資料は、上記報告中の、標本使用度数9以上の当用漢字1,673字について、使用された音訓の種類と、それぞれの使用度数を示した表の中から、特殊な読み方(いわゆる熟字訓、およびそれに準ずるもの。)として掲げられた語例を抜き出して、五十音順、使用度数順に並べたものである。
- 3 隠語、その他一般的でないものは省略してある。

五十音順 (数字は使用度数。8/2のように示したものは、斜線の左が、延べ使用度数。右が、異なり語数。活用語の送りがなは、必ずしも一定しないので、特に示さない。・印は表外字。)

あいくち	・ 匕首	1	いきさつ	経緯	1	おいしい	美味	1
あいつ	彼奴	1	いくばく	若干	1	おいらん	花魁	1
あいにく	生憎	2	いざよい	十六夜	1	おかしい	可笑	4
あき	初秋	1	いたずら	悪戯	3	おかず	副菜	1
あきんど	商人	1	いちじく	無花果	2	おかぼ	陸稻	1
あさって	明後日	2	いちょう	銀杏	1	おかみ	女将	6
あしび	馬酔木	1	いつ	何時	20	おくて	晩生	1
あす	明日	22	いところ	従兄	2	おじ	伯父	16
あずき	小豆	2		従姉妹	2		叔父	7
あなた	貴方	15		従妹	2	おしろい	白粉	6
	貴女	9		従弟	1	おそれ	恐怖	1
あね	義姉	1	いなか	田舎	21/7	おっしゃる	仰言	5
あひる	家鴨	1	いのち	生命	5		仰有	4
あま	海女	4	いぶき	息吹	1	おっと	良人	11
あまた	数多	1	いれずみ	刺青	4	おとな	大人	24
あるじ	主人	2	いろ	情婦	1	おとなしい	温和	1
いいなずけ	許婚者	1	いわゆる	所謂	5	おとめ	乙女	6/2
いか	・ 烏賊	4	うちわ	団扇	2/2		処女	1
いか(～なる ～にも)	如何	14	うば	乳母	1		少女	1
いかが	如何	3	うまい	可味	2	おば	叔母	8
いかん	如何	9	えせ	似而非	1		伯母	6
			えび	海老	5/4	おはこ	十八番	1

おもし	重石	5	くだもの	果物	9	そこ	其処	1
おもちゃ	玩具	1	くに	郷里	1	そば	蕎麦	2
おやじ	親父	7		故郷	1	そもそも	抑々	2
おやま	女形	1	くやしい	口惜	10/2	だし	山車	2
かぐら	神楽	1	くろうと	玄人	2	だし	煮出汁	1
かげろう	陽炎	2	けさ	今朝	6	たそがれ	黄昏	1
かし	河岸	2	げんなま	現金	3	たち	太刀	9/6
かじ	鍛冶	1	こうもり	洋傘	2	たて	殺陣	1
かしこ	彼処	2	ここ	此処	9	だて	伊達	2/2
かぜ	風邪	9	こっち	此方	2	たなばた	七夕	1
	感冒	3	ことし	今年	73	たばこ	煙草	15
かた	結着	1	こよい	今宵	7	たび	足袋	4
かたぎ	氣質	6/2	さざんか	山茶花	2	たま	銃丸	1
かたみ	遺品	1	さすが	流石	3		弾丸	1
かっぱ	河童	5	さつき	五月	1	ちょっと	一寸	20
かなた	彼方	6	さっき	先刻	1	ちりめん	縮緬	3
かみ	内儀	1	しかのみならず	加之	1	ついたち	一日	22
かみそり	剃刀	4	しぐれ	時雨	2	つける	尾行	2
	剃刃	1	しっぽ	尻尾	2	でか	刑事	1
かもん	掃部	1	しな	機会	1	つつもたせ	美人局	1
からし	唐辛子	2	しにせ	老舗	1	つゆ	梅雨	5
ガラス	硝子	7/3	しのび	微行	1	つわ	石落	1
からだ	身体	44	しみず	清水	1	でっち	丁稚	1
からまつ	落葉松	1	しらふ	素面	1	テーブル	卓子	2
かわせ	為替	7	しろうと	素人	7	どうだん	満天星	1
きざ	気障	1	しんがり	殿軍	1	とうとう	遂々	2
きさらぎ	如月	2	すがた	尊容	1	ときわ	常盤	2/2
きじ	雉子	1	すまし	清汁	2	どこ	何処	26
きのう	昨日	21	すもう	相撲	30/2	ところてん	心太	4
きゃつ	彼奴	1		角力	5/4	とけい	時計	20
きょう	今日	62	せい	所為	1	どなた	誰方	1
きょうだい	姉妹	2	せいろう	蒸籠	1	とろび	弱火	5
	弟妹	2	ぜげん	女衞	2	なか	内部	1
	姉弟	1	せりふ	台詞	4	なかんずく	就中	1
キリスト	基督	1		科白	1	なこうど	仲人	4
						なごり	名残	5

なぜ	何故	22	まずい	不味	1	使用度数順		
なだれ	雪崩	1	またぎ	狛師	1			
なにがし	何某	1	まね	真似	11/3	一人	ひとり	213/7
なにとぞ	何卒	2	みこ	皇子	1	二人	ふたり	200/2
なにわ	浪花	3	みこ	巫女	1	今年	ことし	73
	浪華	1	みやげ	土産	3/3	今日	きょう	62
ぬすっと	盗人	1	むすこ	息子	25	身体	からだ	44
ねむ	合飲	1	めおと	夫婦	1	相撲	すもう	30/2
のし	熨斗	2/2	めがね	眼鏡	8	何処	どこ	26
のり	海苔	3		目鏡	1	息子	むすこ	25
ばいた	売女	1	めくら	盲目	1	大人	おとな	24
はけ	刷毛	2	もさ	猛者	1	明日	あす	22
はだか	裸体	1	もみ	紅絹	2	一日	ついたち	22
はたご	旅籠	1	もみじ	紅葉	1	何故	なぜ	22
はたち	二十歳	2	やき	筋金	1	田舎	いなか	21/7
はつか	二十日	14	やぎ	山羊	2	昨日	きのう	21
はなび	煙火	1	やけど	火傷	1	何時	いつ	20
はやる	流行	1	やま	鉾山	1	一寸	ちょっと	20
ひきだし	抽斗	1	やまと	大和	9/2	時計	とけい	20
ひとえ	単衣	3/2	ゆうべ	昨夜	6	真面目	まじめ	18
ひとみ	眸子	1	ゆえん	所以	2	伯父	おじ	16
ひとり	一人	213/7	ゆかた	浴衣	3/2	貴方	あなた	15
ひなた	日向	7/2	ゆくえ	行方	9	煙草	たばこ	15
ひばり	雲雀	2	ゆっくり	悠然	1	如何	いか(～なる ～にも)	14
ひより	日和	5	ゆり	百合	5/2	二十日	はつか	14
ひわだ	檜皮	1	よせ	寄席	4	良人	おっと	11
ふたり	二人	200/3	よそ	他所	1	真似	まね	11/3
ふぶき	吹雪	6/2	よみじ	黄泉	1	口惜	くやしい	10/2
へた	下手	10/2	よも	四方	1	下手	へた	10/2
ほし	前科	1	わかめ	若布	1	太刀	たち	9/6
	犯人	1	わこうど	若人	2	大和	やまと	9/2
ほほえましい	微笑	1	わせ	早生	3	貴女	あなた	9
ぼんぼり	雪洞	1	わらう	微笑	1	如何	いかん	9
ほんもの	真物	1	わらじ	草鞋	2	風邪	かぜ	9
まじめ	真面目	18	以上 241語			果物	くだもの	9

此処	ここ	9	刺青	いれずみ	4	唐辛子	からし	2
行方	ゆくえ	9	可笑	おかしい	4	姉妹	きょうだい	2
叔母	おば	8	仰有	おっしゃる	4	如月	きさらぎ	2
眼鏡	めがね	8	剃刀	かみそり	4	弟妹	きょうだい	2
硝子	ガラス	7/3	足袋	たび	4	玄人	くろうと	2
日向	ひなた	7/2	心太	ところてん	4	洋傘	こうもり	2
叔父	おじ	7	仲人	なこうど	4	此方	こっち	2
親父	おやじ	7	寄席	よせ	4	山茶花	さざんか	2
為替	かわせ	7	土産	みやげ	3/3	時雨	しぐれ	2
今宵	こよい	7	単衣	ひとえ	3/2	尻尾	しっぽ	2
素人	しろうと	7	浴衣	ゆかた	3/2	清汁	すまし	2
乙女	おとめ	6/2	如何	いかが	3	女衞	ぜげん	2
気質	かたぎ	6/2	悪戯	いたずら	3	蕎麦	そば	2
吹雪	ふぶき	6/2	感冒	かぜ	3	抑々	そもそも	2
女将	おかみ	6	現金	げんなま	3	山車	だし	2
白粉	おしろい	6	流石	さすが	3	尾行	つける	2
伯母	おば	6	縮緬	ちりめん	3	卓子	テーブル	2
彼方	かなた	6	浪花	なにわ	3	遂々	どうとう	2
今朝	けさ	6	海苔	のり	3	何卒	なにとぞ	2
昨夜	ゆうべ	6	早生	わせ	3	刷毛	はけ	2
所謂	いわゆる	5	団扇	うちわ	2/2	二十歳	はたち	2
角力	すもう	5/4	伊達	だて	2/2	雲雀	ひばり	2
海老	えび	5/4	常盤	ときわ	2/2	紅絹	もみ	2
百合	ゆり	5/2	熨斗	のし	2/2	山羊	やぎ	2
生命	いのち	5	生憎	あいにく	2	所以	ゆえん	2
仰言	おっしゃる	5	明後日	あさって	2	若人	わこうど	2
重石	おもし	5	小豆	あずき	2	草鞋	わらじ	2
河童	かっぱ	5	主人	あるじ	2	匕首	あいくち	1
梅雨	つゆ	5	無花果	いちじく	2	彼奴	あいつ	1
弱火	とろび	5	従姉妹	いとこ	2	初秋	あき	1
名残	なごり	5	従兄	いとこ	2	商人	あきんど	1
日和	ひより	5	可味	うまい	2	馬酔木	あしび	1
台詞	せりふ	4/2	陽炎	かげろう	2	義姉	あね	1
海女	あま	4	河岸	かし	2	家鴨	あひる	1
烏賊	いか	4	彼処	かしこ	2	数多	あまた	1

許婚者	いいなずけ	1	郷里	くに	1	売女	ばいた	1
経緯	いきさつ	1	故郷	くに	1	裸体	はだか	1
若干	いくばく	1	五月	さつき	1	旅籠	はたご	1
十六夜	いざよい	1	先刻	さっき	1	煙火	はなび	1
銀杏	いちょう	1	加之	しかのみならず	1	流行	はやる	1
従弟	いどこ	1	機会	しな	1	抽斗	ひきだし	1
息吹	いぶき	1	老舗	しにせ	1	眸子	ひとみ	1
情婦	いろ	1	微行	しのび	1	檜皮	ひわだ	1
乳母	うば	1	清水	しみず	1	前科	ほし	1
似而非	えせ	1	素面	しらふ	1	犯人	ほし	1
美味	おいしい	1	殿軍	しんがり	1	微笑	ほほえましい	1
花魁	おいらん	1	尊容	すがた	1	雪洞	ぼんぼり	1
副菜	おかず	1	所為	せい	1	真物	ほんもの	1
陸稻	おかぼ	1	蒸籠	せいろ	1	不味	まずい	1
晩生	おくて	1	科白	せりふ	1	獵師	またぎ	1
恐怖	おそれ	1	其処	そこ	1	巫女	みこ	1
温和	おとなしい	1	煮出汁	だし	1	皇子	みこ	1
処女	おとめ	1	黄昏	たそがれ	1	夫婦	めおと	1
少女	おとめ	1	殺陣	たて	1	目鏡	めがね	1
玩具	おもちゃ	1	七夕	たなばた	1	盲目	めくら	1
十八番	おはこ	1	銃丸	たま	1	猛者	もさ	1
女形	おやま	1	弾丸	たま	1	紅葉	もみじ	1
神楽	かぐら	1	美人局	つつもたせ	1	筋金	やき	1
鍛冶	かじ	1	石落	つわ	1	火傷	やけど	1
結着	かた	1	刑事	でか	1	鉾山	やま	1
遺品	かたみ	1	丁稚	でっち	1	悠然	ゆっくり	1
内儀	かみ	1	満天星	どうだん	1	他所	よそ	1
剃刀	かみそり	1	誰方	どなた	1	黄泉	よみじ	1
掃部	かもん	1	内部	なか	1	四方	よも	1
落葉松	からまつ	1	就中	なかんずく	1	若布	わかめ	1
彼奴	きゃつ	1	雪崩	なだれ	1	微笑	わらう	1
気障	きざ	1	何某	なにがし	1			
雉子	きじ	1	浪華	なにわ	1			
姉弟	きょうだい	1	盗人	ぬすっと	1			
基督	キリスト	1	合飲	ねむ	1			

〔漢-14〕 当用漢字音訓表について 日本新聞協会の意見書(回答)

(昭40.1)

当用漢字音訓表は、当用漢字表と一体をなすべきものとして、新聞(放送関係を含む。)は、これを原則的に採用しているが、現行の音訓表には、現代国語表記の実情に合致しない点もあって、不便を感じる面が多い(たとえば、資料1, 2, 3)。このような不便・不合理を解消するために、音訓表の全面的再検討が望ましい。

ただし、当面の解決策としては、音訓表のまえがき(使用上の注意)の一部を修正して、制限の緩和をはかることを要望したい(資料4)。

〔資料〕

- 1 使用度の少ない訓が残されていて、使用度の多い訓が採用されていない例。
危=「あやうい」があり、「あぶない」がない。怒=「いかる」があり、「おこる」がない。
魚=「うお」があり、「さかな」がない。訪=「おとずれる」があり、「たずねる」がない。
脅=「おびやかす」があり、「おどす」がない。欲=「ほっする」があり、「ほしい」がない。

- 2 ある訓に対応すべき他の訓がない例。

辛(からい)があり、酸(すい)がない。先(さき)があり、後(あと)がない。
速(はやい)があり、遅(おそい)がない。減(へる)があり、増(ふえる)がない。
悪(わるい)があり、善(よい)がない。

- 3 一般に慣用されている熟字を、その音が認められていないために使用できない例。

街道(カイドウ) 夏至(ゲン) 建立(コンリョウ) 祝言(シュウゲン)
殺生(セツショウ) 聴聞会(チョウモンカイ) 通夜(ツヤ) 不吉(フキツ)
遊山(ユサン) 礼賛(ライサン) (傍線が表外音。)

- 4 当用漢字音訓表のまえがき(使用上の注意)の一部を、たとえば次のように修正する。

※(1) 使用上の注意「ハ」項のただし書きの部分「名詞の形だけを掲げているものは、動詞には使わない。」とあるのを、「名詞の形で掲げてあるものも、動詞に使ってよい。」とあらためる。

- (2) 使用上の注意「ニ」項の「つぎのような熟字は、使ってさしつかえない。」とあるのを、「熟字になって、①清濁が互いに変化するもの、②読みぐせで音訓の伸縮または脱落するもの、③母音交替・音便・音の同化などによって変化するものは、使ってさしつかえない。」とあらためる。

①の例

街	ガイ	←→	カイ(街道)	宮	グウ	←→	クウ(内宮)
財	ザイ	←→	サイ(財布)	惨	サン	←→	ザン(惨殺)

上	ジョウ ↔ ショウ (上人)	代	ダイ ↔ タイ (代謝)
②の例			
脚	キョク ↔ ギャ (行脚)	景	ケイ ↔ ケ (景色)
従	ジュウ ↔ ジュ (従一位)	除	ジョ ↔ ジ (掃除)
想	ソウ ↔ ソ (愛想)	通	ツウ ↔ ツ (通夜)
頭	トウ ↔ ド (音頭)	十	とお ↔ と (十月)
読	ドク ↔ ド (読経)	端	はし ↔ は (端境期)
夫	フ ↔ フウ (夫婦)	守	まもり ↔ もり (子守り)
猛	モウ ↔ モ (猛者)	木	モク ↔ モ (木綿)
遊	ユウ ↔ ユ (遊山)	割	わり ↔ わっ (割符)
③の例			
雨	あめ ↔ あま (雨戸)	天	あめ ↔ あま (天の川)
雨	あめ ↔ さめ (春雨)	位	イ ↔ ミ (三位)
皇	オウ ↔ ノウ (天皇)	金	かね ↔ かな (金物)
木	き ↔ こ (木立)	合	ゴウ ↔ ガッ (合併)
祝	シュク ↔ シュウ (祝儀)	何	なに ↔ なん (何人)
発	ハツ ↔ パツ (出発)	人	ひと ↔ びと (何人)
目	め ↔ ま (目深)	若	わか ↔ わこう (若人)

※(注) 名詞の形だけを掲げてあるものには次のような字がある。

頂[○]いただき 謡[○]うたい 趣[○]おもむき 虞[○]おそれ 霧[○]きり 煙[○]けむり 氷[○]こおり
 印[○]しるし 巧[○]たくみ 畳[○]たたみ 務[○]つとめ 隣[○]となり

〔○印の語は、「使用上の注意事項」に例示してあるもの。〕

〔漢-15〕 当用漢字音訓表についての

日本文芸家協会員の意見

日本文芸家協会国語調査委員会が、昭和37年10月に行なった意見調査の結果をまとめて、昭和38年6月に、国語審議会あてに提出した要望書の要約。

〔上記調査の質問事項〕 ①当用漢字音訓表は必要なりや否や。②当用漢字音訓表はどういう点で改訂を必要とするか、具体的に例をあげて示されたい。

〔①に対する解答の集計〕 当用漢字音訓表におおむね賛成 (4) 条件付賛成 (17)

当用漢字音訓表に反対 (73) 条件付反対 (7)

〔②に対する解答——44人の意見の分類〕 *かっこ内は人数を示す。

1 全体的な問題点について

- ア 読み方の制限はやめるべきである。(1)
- イ 読み方の制限は、元来強制すべきものではない。(1)
- ウ 慣習を捨てすぎている点改訂を要する。(1)
- エ 音訓の種々相にかんがみ、基準に弾力をもたせよ。(1)
- オ 音訓表の廃止が不可能なら、熟語に必要な音訓を再検討せよ。(2)
- カ 口語体の中の文語的表現に用いる音訓も考慮せよ。(1)
- キ 1語で、異なる読み方をするもので、(甲) 送りがなによって識別できないもの、(乙) 送りがなによって識別できるものを挙例して、問題の所在を示すことが先決である。(2)

(甲)の例——敵 かたき てき 開く あく ひらく (乙)の例——温 あたたかい ぬくい 干物 ひもの ほしもの

- ク 音訓表は教育漢字にだけ適用せよ。(キの研究に基づき新しく作製する。)(1)

2 個別的な問題点について

- ケ 音訓の選び方にむらがある。(1) 陵に「みささぎ」があり、陸に「おか」がない。
- コ 普通に知られ、用いられている訓がない。(6)
孔 あな、刃 やいば、兄 にい、姉 ねえ、父 とう、母 かあ、止 やめる、生 はえる、裁 さばく、欲 ほしい
- サ 音だけあって訓がない。(4)
以 もつて、恭 うやうやしく、徑 みち、研 とぐ、硬 かたい、唆 そそのかす
- シ 「名詞形をあげたものは、動詞には使えない。」のような不可解な制限がある。(1)
務 つとめる 謡 うたう
- ス 動詞の異訓で語幹が同じであるのに認められない。(3)
縮 ちぢむ ×ちぢれる、潤 うるおう ×うるむ
- セ 同訓異字の整理で意味の区別ができない。(4)
あし ○足、×脚、きく ○聞、×聴、みる ○見、×視、めぐる ○巡、×回、
×周、×旋、ふるい ○古、×旧。また、「要る」をかなで書くと、「居る」とま

ぎらわしい。

ソ よく用いられる熟字訓が認められていない。(6)

田舎，五月雨，時雨，角力，雪崩，所以，伯父，叔母，従兄，従弟

タ 普通に用いられる熟語に使う音訓が認められていない。(2)

景色，建立，合戦，山際，財布，掃除，笑顔，善し悪し，喫茶，弟子，乳房
浜辺，由緒（かな書き・まぜ書きに対して，読みにくい，習慣無視である，な
どの反対意見もある。）

3 当用漢字表の「使用上の注意事項」と関連する問題点について

チ 代名詞や副詞などを，むやみにかな書きにする必要はない。(3)

ソ 動植物の名称を，必ずしもかな書きにしなくてよい。(3)

テ 〜のおり，〜という，〜ていく などに漢字を使いたい。(1)

4 当用漢字表，現代かなづかいなどについて

ト 新聞はまぜ書きをしないで，ルビを使用せよ。（かっこで，読み方を示すのは
不自然。）(1)

ナ 漢字の数を 3,000字ぐらいにふやしたい。(1)

ニ 当用漢字は廃止すべし。(1)

ヌ 常識的な熟語に用いる字が，はなはだしく除かれている。（かな書き・まぜ書き・
言いかえに反対。）(4)

× × × × × × × × × ×
酋長，雲雀，元旦，妄想，明晰，氾濫，洗濯，僧侶，名妓，愛妾

ネ かな文は意味がとりにくく，漢字の熟語や術語の処置に至っては，日本語の性
格を根本的に改造するほかない。(1)

ノ ヴァ，ヴィによるVの表記を尊重せよ。(1)

ハ 「じ」と「ぢ」，「ず」と「づ」の矛盾・混乱が多い。(1)

ヒ 「じ」と「ぢ」，「ず」と「づ」の区別を廃止せよ。(1)

（注）語例は，すべて解答の中から選んだ。

〔漢-17〕 異字同訓に関する資料

- 1 一般社会に行なわれている訓を、五十音順に掲げ、その訓に該当する漢字を、次の順序によって記号をつけて示した。

当用漢字表にあり、同音訓表で認められているもの……………○

当用漢字表にあり、同音訓表で認められていないもの……………×

当用漢字表にないもの——これは、()に包んで、参考のために示し、補正資料で、当用漢字表に加える字(ただし、その音訓には関係なく。)には、「ホ」、人名用漢字別表にある字には、「人」の印をつけた。

同じ記号のものは、おおむね画数順に配列したが、慣用度や意味の相違を考慮した場合もあり、必ずしも一定していない。

- 2 訓はふつうに用いられる形で掲げた。自動詞と他動詞については、漢字のあて方に区別のある場合を除いて、どちらか一方だけを掲げた。

- 3 は…○刃○羽○葉○齒×端のように意味のまったく異なる語を並べて示すことは、本資料の目的ではないので、原則として省略したが、なかには、き…○木×樹○生のように、便宜的に別種の語を併記した場合もある。

あう	○合○会×相×対×遭×遇 (逢)	あし	×悪×凶(兇)
あえて	×敢×肯	あし	○足×脚
あお	○青(碧, 蒼)	あずかる	○預×与
あおぐ	○仰×扇(「おうぎ」は○)	あたい	○価○値×直
あかい	○赤×朱×紅×丹(緋, 赭)	あたえる	○与×予
あがなう	×償×購	あたたかい	○暖×温(煖) (～める)
あかり	○明×燈(灯) ^ホ	あたる	○当×中×応×抵×値
あがる	○上○揚×挙×騰(昂)	あてる	○当○充(宛)
(げ)		あつい	○暑○熱
あきなう	○商×販	あつい	○厚×篤(淳, 敦, 渥) ^{人 人}
あきらか	○明×昭×哲×朗×章×晶 ×彰×顯(晃, 瞭) ^人	あつまる	○集(蒐, 輯, 聚, 湊, 鍾)
あきる	○飽(厭, 鑒)	あと	○跡×後(迹, 痕, 蹟)
あく	×開×空	あな	○穴×孔×坑
あける	○明×開×空	あなどる	○侮×易×慢
あざむく	○欺(詒)	あぶら	○油×脂×肪(膏, 膩)

あまねし ×周×遍×普
あまる (す) ○余×剩
あや ×文×紋×章
あやうい ○危×陰
あやしい ○怪×奇×異
あやまる ○誤×過×錯(謬)
あやまる ×謝
あらい ○荒×粗×疎×暴
あらかじめ ×予×逆×預
あらたまる (め) ○改×更×革
あらわす ○表○著○現×見×彰×露
×顕
ある ○有×在×存(或)
あわせる ○合×併
あわれ ○哀(憐, 憫)
いう ○言×道(云, 謂, 曰)
いえ ○家×舎
いかる ○怒×嚇(恫, 嚇)
いきる ○生×活
いく ○行×往(逝)
いくさ ×軍×戦
いさお ×功×勲×績
いさぎよい ○潔×廉
いそがしい ○忙×急
いた ○板×版
いだく ×抱×懷×擁
いたす ×致×効
いただく ×頂(「いただき」は○)(戴)
いたむ ○痛×傷×悼×隱
いたる ○至×格×到×届(詣)
いつわる ○偽×陽×詐(矯, 詭)
いと ○糸×弦(絃, 綸)
いのる ○祈(禱)
いましめる ○戒×警(誡)

いやしい ○卑(俚, 鄙, 賤)
いやす (える) ×医×療(癒)
いれる ○入×容×納
うえる ○飢×餓
うえる ○植×芸×栽×種×樹
うかがう ○伺×候×間(偵, 覘, 窺)
うける ○受○請×享×承(「うけ
たまわる」は○)
うしお ×潮(汐)
うしなう ○失×亡×逸×喪
うすい ○薄×淡(菲)
うたう ○歌×吟×欧×唱×詠×謡
(「うたい」は○)(唄, 謳)
うち ○内×中×衷×家×裏
うつ ○打○討○撃×伐×征×射
×拍×殴×撲
うつす ○移×転×遷(徙)
うつす ○映○写×膳
うながす ○促×催
うなじ ×項×領
うぶ ×生×初×産
うべなう ×肯×諾
うま ○馬×午
うまい ×甘×旨×美×巧
うまれる ○生○産×誕
うめく ×吟(呻)
うらむ ○恨×憾(怨)
うる ×得×獲 →える
うるおう ○潤×沢×湿(濡)
うるわしい ○麗×美
うれえる ○憂×患×愁
え ○絵×画×図
えがく ○描×画
えだ ○枝×条

えらぶ ○選×択×簡(撰)
 えり ×領(衿, 襟)
 える ○得○獲
 お ○雄×男(牡)
 おう ○追×逐
 おう ○負
 おえる ○終×了×卒
 おおう ×覆×被×冒(蔽, 掩, 庇)
 おおきい ○大×巨
 おおむね ×率×概(梗)
 おか ○丘×陸×陵(岡, 邱, 阜)
 おかす ○犯○侵○冒×干
 おく ○置×舍×居×措×錯
 おくる ○送○贈×遺×輸
 おくれる ○遅×後
 おごそか ×莊×嚴
 おこたる ○怠×惰×慢
 おす ○雄(牡)
 おこる ○起○興
 おさ ×長×伯
 おさえる ○押×圧×抑
 おさない ○幼×稚
 おさめる ○治○修×攻×理
 おさめる ○収○納×藏
 おしえる ○教×訓(誨)
 おしむ ○惜×愛(吝, 嗇)
 おす ○押○推×圧(捺)
 おそい ×遅×晩
 おそれる ○恐×怖×虞(「おそれ」は○)(懼)
 おだやか ○穩×妥
 おちる ○落×墮×墜(隕, 殞)
 おとこ ○男×夫×郎
 おどす ×威×嚇
 おどる ○踊×跳×躍

おの ×己×各(「おのおの」は○)
 おも ×主×母(～屋)
 おもう ○思×以×念×意×想×憶
 ×懷(惟, 謂)
 おもて ○表○面
 おもむく ×赴×趣(「おもむき」は○)(趨)
 おや ○親×母×父×祖
 およぶ ○及×逮
 おりる ○降×下
 おる ×居×処
 おろか ○愚×痴(呆)
 おろす ○降○卸×下
 おわる ○終×了×卒(畢, 竟)
 おんな ○女×婦
 かう ○飼×畜
 かえす(る) ○返○帰×反×回×還×旋
 ×復
 かえって ×反×却×顧
 かえりみる ○省○顧
 かえる(わ) ○代○変○換○替×更×易
 ×貿×迭×通
 かおる ×香×薰
 かかえる ×抱(捧)
 かがみ ○鏡×鑑(「かがみる」も×)
 かがやく ○輝×曜(煌, 赫, 耀)
 かかる(け) ○係○掛×懸×架×系(繫)
 かかわる ×係×拘×関
 かぎる ○限×画
 かく ○書×描×画
 かくす ○隠×匿×秘×藏
 かげ ○陰○影×景(蔭, 翳)
 かける ○驅(翔, 翺)
 かける ○欠(虧, 闕)

かさなる ○重×申×畳×累×複×層
 ×襲
 かざる ○飾×文
 かしこい ○賢(聡)
 かしら ×首×頭
 かすか ×幽×微
 かぞえる ○数×計×算
 かた ○形○型×模
 かたい ○堅×固×剛×硬×確
 かたい ○難
 かためる ○固
 かたき ×敵(仇, 讎)
 かたち ○形×状×容×象×像(貌)
 かたどる ×象×像
 かたる ○語×談
 かたわら ×側×傍(旁)
 かつ ○勝×克
 かつぐ ×担
 かど ×角(稜)×廉×門
 かなう ×協×称×適×敵
 かなしい ○悲×哀
 かなめ ×枢×要
 かねる ○兼×包×該
 かの ○彼×夫
 かみ ○上×守×頭
 から ×空×虚(虚)
 かり ○狩×獵
 かれる ○枯×渴(涸, 嗟, 稿)
 かわ ○皮×革
 かわく ×干×乾×渴×燥
 かわる → かえる
 かんがえる ○考×査×案×勘(稽)
 かんばしい ○芳×香
 かんむり ○冠×弁
 き ○木×樹○生

きく ○聞×聴
 きく ×利×効
 きさき ×后×妃
 きざはし ×陛×階
 きざむ ○刻×刊
 きず ○傷×創(疵, 瘕, 瑕, 瘡)
 きずく ○築×城
 きぬ ○絹×衣(帛)
 きびしい ×厳×酷×緊
 きみ ○君×公×王×后×皇
 きめる ○決×定×極
 きも ○肝×胆
 きよい ○清×淨×淑
 きる ○切×伐×断(斫, 斬, 剪, 截)
 きる ○着×著×衣×被
 きれ ○切×片×裂
 きわ ×際
 きわめる ○窮×究×谷×極(竟)
 (ま)
 くら ○食×喫(啖, 啗, 喰)
 くさる ○腐×朽
 くずれる ×崩×壊(頽)
 くだる ○下×降
 くつがえる ×傾×覆
 くに ○国×邦
 くみする ○組×与
 くむ ○組
 くむ (汲, 酌, 斟)
 くら ○倉○蔵×庫×府
 くらい ○暗×幽(昏, 冥, 晦, 蒙, 闇)
 くらう ×食(喰) → くら
 くらべる ○比×方×校×較
 くるしむ ○苦×困

くら ○黒×玄
 くわしい ○詳×委×精
 けがす ○汚(穢)
 けずる ○削×刊(刪)
 けわしい ○険×阻(峻, 峭)
 こ ○子×児(仔)
 こいねがう ×希×庶×幾(尙)^{人ホ}
 こうむる ○被(蒙)
 こえる ○越×超(踰)
 こおる ○凍×氷(「こおり」は○)
 こころ ○心×胸×意×精×神
 こたえる ○答×对×応×諾
 ことごとく ×尽×卒(悉)
 ごとし ×如×若
 ことなる ○異×殊
 ことば ×詞×辞
 ことわる ○断×辞
 これ ×是×維×諸(之, 伊, 此,
 惟)
 ころ ×比(頃)
 ころがる ×転(顛)
 ころぶ ×転(顛)
 こわい ×剛×強
 こわい ×恐×怖
 こわす ×壊(毀)
 さいわい ○幸×吉×祉×祥×福
 さか ○坂(阪)
 さかい ○境×界×域
 さがす ○搜×索×探
 さかずき ○杯×爵(卮, 盃, 盞)
 さかな ×魚(肴)
 さかん ○盛×壮×莊
 さき ○先×前(尖, 埼, 崎)
 さく ○裂×析×剖×割
 さけぶ ○叫×号

さげる ○下×提
 ささえる ×支×障
 ささげる ×献(捧)
 さす ○刺○差×指×射(插)
 さと ○里×郷
 さとい ×敏(智, 聰)^人
 さとる ○悟×了×曉×覺×諭(喻)
 さばく ×裁(捌)
 さま ○様×態
 さまたげる ○妨×害(碍, 礙)
 さむらい ○侍×士
 さめる ×覺×冷(醒, 寤)
 さる ○去×違
 しお ○塩○潮(汐)
 しかし ×併×然(而)
 (〜も)
 しきりに ×累×連(頻)
 しく ○敷×舗×施
 しく ×如×若
 しげる ○茂×滋×繁
 しずか ○静×寂×閑
 しずむ ○沈×没(淪, 湮)
 したがう ○從×服×殉×率×循×随
 ×順×遵
 しな ○品×科×級×階
 しま ○島×州
 しまう ×了×終
 しまう ×藏×納×匿
 しみる ×浸×染(沁, 滲)
 しめる ○締○絞×閉○占
 しらせる ○知×報
 しらべる ○調×査×検
 しりぞける ○退×斥×却
 しる ○知×識
 しるし ○印×表×信×記×章×符

しるす ×微×標×驗
 ×紀×記×誌×標×銘×録
 ×識
 しろ ×代×料
 しろ ○白×素
 すえ ○末×季
 すく ○透×空
 すくう ○救×濟
 すくない ○少×寡×鮮
 すぐれる ×秀×俊×勝×傑^人×優^人
 すけ ○助×佐×介^人(亮, 輔)
 すじ ○筋×条×理
 すすむ ○進×前×漸^人(晋)
 すすめる ○進○勸×奏×奨×献×薦
 すたれる ×廢×替
 すでに ○既(已)
 すてる ○捨×委×棄×遺(捐)
 すなわち ×即×便×則×就×載^人(乃)
 すべて ×凡×全×総
 すべる ○統×総
 すべる ×滑(汧)
 すみ ×角(隅)
 すみやか ×迅×速(亟)
 すむ ○住(栖, 棲)
 すむ ○澄×清
 する ○刷×摩×擦^人(磨, 摺)
 すわる ×座(坐, 据)
 せ ○背(脊)
 せまい ○狭(陋, 陝, 窄, 隘)
 せまる ○迫(逼, 逼)
 せめる ○攻○責
 そう ○沿×傍
 そえる ○添×副
 そこなり ×害×毒×残×損×賊

そしる ×非×刺(誹, 詆, 毀, 謗, 譏, 譖, 讒)
 そそぐ ○注(沃, 洒, 溉, 瀉, 灌, 灑)
 その ×夫(其)
 そば ×側×傍
 そむく ×反×背×負×倍(舛, 乖, 叛)
 そる ×反×逸
 (らす)
 それ ×夫(其)
 たえる ○耐○堪×任×勝
 たおれる ○倒(仆, 僵, 斃, 顛)
 たかい ○高×隆×崇(昂, 喬)
 たがう ×差×違
 たから ○宝×財×貨×幣
 たく ×炊(焚, 爨)
 たぐい ×類×匹×比×倫×偶
 たくみ ○巧×工×匠
 たくわえる ×畜×貯×蓄
 たげ ×丈×長
 たけし ×武×威×健×猛
 たすける ○助×介×右×左×佐×扶^人
 ×相×援×資×贊×翼^人(匡, 丞, 佑, 弼, 輔)
 たずねる ○尋×討×訪×温×探(訊)
 ただ ×唯×止×特×独×徒×第^人
 (只, 惟)
 たたえる ×称×賛(頌, 讚)
 たたかう ○戦×闘
 ただし ○但
 ただしい ○正×貞×端
 ただす ○正×糾×訂×格×規×彈^ホ
 ×督×質(矯)
 たたむ ×畳(「たたみ」は○)

ただちに	○直×徑	つかえる	×支(問)
たつ (てる)	○立○建×作×起×植×樹 ×点×発	つかさどる	×司×典×宰×掌
たつ	○断○裁○絶(截)	つかれる	○疲×勞×弊×罷
たつ	×経	つかわす	×使×差×遣
たつとい (〜ぶ)	○尊×貴 ^{人ホ} (尚)	つぎ	○次○継
たて	○縦×経	つきる	○尽×既×幾(竭)
たてまつる	○奉×献	つく	○突×衝(搗, 撞)
たてる	→ たつ	つく	○付○着×附×即×著×就 ×属×隸
たとい (え)	×令×仮×借×設×就×縦	つぐ	○次○継×垂×接×紹×尋 ×嗣×襲
たとえる	×例×況(喩, 譬)	つぐ	×注
たな	×架(棚)×店	つくえ	○机×卓×案
たに	○谷 ^ホ (溪)	つぐなう	○償×賠
たのしい (〜む)	○楽×娛×愉	つくる	○作○造×為×製×創 ×浸(漬)
たのむ	○頼×負×託×嘱(恃)	つける	×浸(漬)
たま	○玉×丸×珠×球×彈×魂	つち	○土×地 ^ホ (壤)
たまう	×給×賜(「たまわる」は○)	つつ	○筒×砲×銃
たましい	○魂×靈	つつしむ	○慎×肅×敬×謹
たまたま	×会×偶×遇×適	つづまやか	×約×儉
ためし	×例×様	つつむ	○包(裹)
ためす	×試×験	つとめ	○務○勤
ためる	×貯×蓄(溜)	つとめる	○努○勤×力×勉×務(「つ とめ」は○)
たもつ	○保×有	つな	○綱×維
たより	×便×信×頼	つなぐ	×維×係(繫)
たよる	×依×頼	つね	○常×毎×恒×庸×経×尋 ×雅
たれる	×低×垂	つまびらか	×詳×審
ちかい	○近×庶×幾	つむぐ	○紡×績
ちかう	○誓×盟	つよい	○強×剛(勁, 彊)
ちがう	○違×交×差	つらなる	○連×列×陳
ついで	×次×序×叙×倫×秩×尋	つれる	○連×伴
ついに	×卒×終×遂(竟)	て	○手×掌
つかう	○使×遣×費	とう	○問×訪(訊)
つかえる	○仕×事		

とうとい ×尊(「たっとい」は○)
 ×貴×崇
 とおる ○通×徹×透^人(亨)
 とが ×科×過(咎)
 とがる (尖)
 とき ○時×刻×秋
 とく ○説○解×釈
 とける ○溶○解×融(熔, 鎔)
 ところ ○所×処
 とざす ○閉×鎖×封
 (じる)
 とし ○年×歳×齡
 ととのえる ○整×調^{人ホ}(斉)
 とどまる ×止×住×留×停×駐
 とどめる ×止×禁(遏)
 となえる ○唱×称(誦)
 とぶ ○飛×跳
 とまる ○泊○止×停
 とも ○友○共○供×伴^人(朋)
 ともしび ×燈(燭, 灯)
 ともす ×点
 ともに ○共×与(俱)
 とらえる ○捕×囚×拘(捉, 擒)
 とり ○鳥×鷄
 とる ○取○執○採×撰×撮×操
 な ○名○菜
 ない ○無×亡(莫)
 なお ×猶^{人ホ}(尚)
 なおす ○直×治(癒)
 (る)
 なか ○中○仲×腹
 ながい ○長×永
 なかば ○半×央
 なく ○泣○鳴(哭, 啼)
 なくす ○無×亡×失×喪
 なくなる → ない

なぐる ×毆(擲)
 なげく ○嘆×慨(嗟, 慷)
 なぞらえる ×准×準×擬
 なまける ×怠×惰(懶)
 なみ ○並×凡
 なみ ○波×浪(濤, 瀾)
 なみだ ○涙×泣(涕, 泪)
 ならう ○習×効×倣×閑(倣)
 ならぶ ○並×双×併×偶×排×方
 (べる) ×列×陳
 ならわし ×習×俗×慣
 なる ○成×為×作×濟×就
 (す)
 なれる ○慣(馴)
 なんじ ×女×若(汝, 爾)^人
 におう ×香×臭(匂)
 にくい ○憎×難
 にくむ ○憎×疾×惡(嫉)
 にげる ○逃×亡×北(遁)
 にせ ×偽[?](贋)
 になう ○荷×任×担
 にる ○似×肖×像
 にる ○煮×熟(烹, 煎)
 にわか ×卒×倉×暴(俄)
 ぬく ○抜×抽×貫(「つらぬく」
 ば○)
 ぬける ×脱(「ぬぐ」は○)
 ぬすむ ○盜×窃
 ねがう ○願×希
 ねむる ○眠×睡
 ねる ○寢×眠×睡
 ねる ○練×鍊
 のがれる ×逃×免(遁)
 のこる ○残×遺
 のせる ○乗○載×騎
 (のる)

のぞむ ○望○臨
 のち ○後×后
 のっとる ×法×則×儀
 のびる ○伸○延×展(舒)
 (ばす)
 のべる ○述×申×序×宣×陳×演
 (抒)
 のぼる ○上○登×升×昇×騰
 のむ ○飲×喫(吞)
 のり ×式×典×法×則×度×紀
 ×規×程×儀×憲
 のる → のせる
 はえる ×生×映×栄
 はか ○墓×墳
 はかりごと ×図×計×略×謀
 はかる ○図○計○測○量×画×度
 ×料×称×商×虞×権×衡
 ×諮×謀×議(咨, 揆, 揣,
 詢, 猷, 諏, 謨)
 はく ○吐×噴(喀, 嘔)
 はく ○掃×履(穿)
 はげしい ○激×烈×劇(厲)
 はこ ○箱(函)
 はこぶ ○運×般×搬×載
 はさむ (夾, 挾)
 はじめ ○初○始×一×首(肇)
 はじめる ○始×初×創×載
 はしる ○走×奔(趨)
 はじる ○恥×辱(羞, 慙)
 はずす ×外×脱×離
 はだ ○膚(肌)
 はたけ ○畑(畠)
 はて ○果(涯)
 はな ○花×英×華
 はなす ○話×談
 はなす ○放○離

はなつ ○放×発×縦
 はなはだ ×太×孔(甚)
 はねる ×跳(撥, 劬)
 はぶく ○省×略
 はやい ○早○速×迅×快×疾(夙,
 捷)
 はらむ ×妊×胎×娠
 はらわた ×腸×臟
 ひ ○日○火×陽×燈(灯)
 ひいでる ×秀
 ひかり ○光×曜
 ひきいる ○率×帥×将
 ひく ○引×延×抽×彈×援(牽
 曳, 挽, 惹)
 ひくい ○低×卑
 ひそか ×私×秘×窃×密×陰
 ひそむ ○潜
 ひつじ ○羊×未
 ひと ○人×仁
 ひとしい ○等×均(齊)
 ひとつ ○一×壹
 ひとり ×独×孤×特
 ひびき ○響×韻
 (く)
 ひま ○暇×閑(隙)
 ひら ×片×枚
 ひらく ○開×拓×発×展×啓×排
 ×墾(披)
 ひる ○干×乾
 ひろい ○広×博×寛(弘, 宏, 浩)
 ひろがる ○広×拓
 ふえる ×殖×増
 ふく ○吹×噴
 ふくれる ×脹×膨
 ふせぐ ○防×拒(禦)

ふせる ○伏(俯, 俛)
 ふだ ○札×版×簡(牒)
 ふたたび ○再×二×復
 ふたつ ○二×双×弐×両
 ふとる ○太×肥
 ふね ○舟○船×艦
 ふみ ×文×冊×史×典×書
 ふむ ○踏×踐×履
 ふるい ○古×旧×故
 ふるう ○震○奮○振×揮
 ふれる ○触×抵
 べし ×可×当
 へだてる ○隔×距×間
 へや ×室×房×坊
 へる ○減×少×耗
 へる ○経×歷
 ほか ○外×他
 ほこる ○誇×伐(矜)
 ほす ○干×乾
 ほど ×程
 ほとり ×上×辺×畔×頭
 ほのお ○炎(焰)
 ほぼ ×約×略×粗
 ほめる ×奨×賞×賛(頌, 褒, 讃)
 ほる ○彫○掘(堀)
 ほろびる ○滅×亡×喪
 ま ○目×眼
 まいる ○参(詣)
 まかせる ○任×委
 まがる ○曲×句(枉)
 まける ○負×敗
 まこと ○誠×実×信×真×衷×情
 ×款
 まさに ×方×正×当×応×将×適
 まさる ×勝×優
 まじる ○混○交×雜×錯
 (ぜ)

まじわる ○交
 ます ×升×斗
 ます ○増×倍×益
 また ○又×復×還
 まち ○町×市×坊×街
 まつ ○待×候×需(俟, 須)
 まったく ○全×完
 まつる ○祭(祀, 祠)
 まと ○的×侯
 まな ×目×眼
 まなこ ○眼×目
 まねく ○招
 まみえる ×見×謁
 まもる ○守×衛×護
 まるい ○丸×円×团
 まれ ×希(稀)
 まわり ○回×廻×周
 まわる ○回(廻)
 み ○身○実(躬)
 みがく ×研(琢, 磨)
 みこと ×命×尊
 みことのり ○詔×勅
 みずから ○自×身×親
 みせ ○店×舗
 みたす ○満×充×実
 みだりに ×漫×濫
 みだれる ○乱×濫(紊, 淫, 擾)
 みち ○道×径×倫×軌×途×塗
 ×路
 みちる →みたす
 みちびく ○導×道
 みどり ○緑(碧, 翠)
 みな ○皆(咸, 胥, 僉)
 みのる ○実×熟×年(稔, 穰)
 みやこ ○都×京×府

みる	○見×看×相×視×診×察 ×覧×観	もれる	○漏(泄, 洩)
むかう	○向×対	もろ	×諾×双
むかえる	○迎×逆(邀)	もろもろ	×庶×衆×諸
むくいる	○報×酬	や	○屋○家
むごい	×惨×酷	やから	×族×輩
むすぶ	○結×締	やく	○焼(烙, 焚, 燎)
むすめ	○娘×女×嬢	やさしい	○優×易
むち	×策(筈, 鞭)	やしなう	○養×畜
むなしい	×空×虚(曠)	やすい	○安×易×泰×康×寧×廉 (靖)
むね	○旨×宗(棟)	やすんじる	○安×保×康(靖)
むら	○村○群(邑, 叢, 斑)	やど (〜る)	○宿×舎
め	○雌×女(牝)	やぶる (れる)	○破○敗×傷×弊×壊(毀)
め	○目×限	やまい	○病×疾
めあわす	×女×妻	やみ	×暗(闇)
めぐむ	○恵(恤, 賑, 寵)	やめる (やむ)	×止×息×廢×罷×辞(已, 熄)
めぐる	○巡×回×周×旋×転×週 ×循×運×還×環(廻, 繞)	やむ	○病×疾(疾)
めす	○雌×女(牝)	やや	×良×差×浸×旋×較(稍)
めす	○召×徴	やる	×遣×行
めずらしい	○珍×奇	やわらかい	○柔×軟
もうす	○申×白×啓	やわらげる	○和○柔
もえる	○燃×然×炎(萌)	ゆえ	×故×以
もし	×仮×如×即×使×若×設	ゆく	○行×如×往×征×適(之, 徂, 逝, 邁)
もちいる	○用×庸 ^人 (須)	ゆずる	○讓×禪(遜)
もつ	○持×有×保	ゆたか	○豊×裕(饒)
もって	×以×用×将	ゆるい (〜やか)	×寛×緩(舒)
もっとも	○最×尤	ゆるす	○許×免×赦×釈×縱(宥, 恕)
もと	○下○元×本×旧×固×故 ×原×素×許×資×基(「も とい」は○)	ゆるむ	×緩(弛, 紓)
もとめる	○求×干×要×索×需	ゆれる	○揺
もとより	×固×素	よ	○世○代
もの	○物○者		
もる	×守×護○盛		

よい ○良×可×吉×好×佳×淑
 ×善
 よう ○酔(酩)
 ようやく ×漸
 よく ×克×能
 よこ ○横×衡
 よこしま ×邪×違(奸)
 よごす ×汚(「けがす」は○)
 よし ○由
 よしみ ×好(誼)
 よせる ○寄
 よそおう ○装×粧(妝)
 よぶ ○呼×喚
 よみがえる (甦, 蘇)
 よむ ○読×訓×詠
 よめ ○嫁×婦
 よる ○因×由×自×依×拠×縁
 ×頼(倚)
 よろこぶ ○喜×悦×歓×慶×款×賀
 人
 (欣)
 よろしい ×利×宜
 よわい ×齡×寿×齒
 よわい ○弱(庈, 懦)
 わ ○輪×環
 わが ×我(吾)
 わかい ○若×稚×少(夭)
 わかる ×分×判×解
 わかれる ○分○別×岐(訣)
 わける ○分×判×別×弁×剖×班
 ×部×頒
 わき ×脅×傍(脇, 掖, 腋)
 わきまえる ×弁
 わく ○沸(涌, 湧)
 わけ ○訳
 わざ ×技×業×為×能

わざわい ○災×禍(厄)
 わずか (僅, 纔)
 わずらわしい (〜う) ○煩×患×累
 わすれる ○忘×遺
 わた ○綿(棉, 絮)
 わたくし ○私(妾)
 わたる ○渡×度×渉×濟(互)
 わらう ○笑×咲(哂, 嗤)
 わる ○割×破×除
 わるい ○悪×凶(兇)
 われ ○我×予×余×朕(吾, 俺)

〔番外5〕音訓検討表(抄)

	以 ^{もつて}	為 ^{ため}	下 ^{おろす}	家 ^{うち}	華 ^{はな}	画 ^え	我 ^{わが}	開 ^{あける}	街 ^{まち}	格 ^こ	乾 ^{かわく}	眼 ^め	球 ^{たま}	居 ^{おる}	許 ^{もと}	挙 ^{あげる}	魚 ^{さかな}
1	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
2	○	+	+	+	○	○	○	+	○	○	+	+	○	○	○	○	+
3	-	-	+	-	○	○	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	○
4	○	○	上 ^{あげる}	○	○	○	○	閉 ^{閉める}	○	○	湿 ^{湿る}	○	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	+	+	下 ^{くだす}	一 ^い	+	+	○ ^{おれ}	一 ^{ひらく}	+	○	+	+	+	一 ^{いる}	+	+	一 ^う
7	+	+	降 ^降	+	花 ^花	一 ^絵	+	明 ^明	一 ^町	○	+	一 ^目	一 ^玉	+	下 ^下	上 ^上	+
8	-	-	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	-	-	-	○	+	+	-	○	+	+	+	+	+	-	-	-	+
	0	1	1	1	3	2	-1	2	3	1	5	4	3	-1	1	-1	3
	423	84	1038	876	72	562	119	331	70	191	48	272	175	162	91	79	63
	16/1	26/1	20/6	19/1	25/3	21/3	24/2	23/5	35/5	17/2	18/2	221/13	17/5	29/1	15/6	22/2	21/4
	以 ^{もつて} 16	為 ^{ため} 26	眺 ^{なが} め 下 ^{おろ} す 下 ^{おろ} す 枝 ^{えだ} 下 ^{おろ} し 振 ^ふ 下 ^{おろ} す 見 ^み 下 ^{おろ} す 下 ^{おろ} る 13/3 下 ^{おろ} り 上 ^あ り 下 ^{おろ} り 11 下 ^{おろ} り 着 ^き く 1	家 ^{うち} 19	華 ^{はな} 々 ^々 かし 10 い 14 華 ^{はな} 1	画 ^え 19 油 ^{あぶら} 画 ^え さし画 ^え	我 ^{わが} 22 我 ^{わが} 儘 ^{まま} 2	開 ^あ ける 放 ^{はな} す 18 年 ^{とし} 開 ^あ け 開 ^あ け 放 ^{はな} す 開 ^あ く 5/1 開 ^あ く 5	街 ^{まち} 26 街 ^{まち} 角 ^{かく} 街 ^{まち} 着 ^{ちやく} 街 ^{まち} 中 ^{ちゆう} 裏 ^{うら} 街 ^{まち}	格 ^こ 子 ^こ 16 格 ^こ 間 ^{かん} 1	乾 ^{かわ} く 16 半 ^{はん} 乾 ^{かん} き 2 乾 ^{かわ} かす 4/1 乾 ^{かわ} かす 4	眼 ^め 球 ^{たま} 196 眼 ^め 新 ^{あらた} しい 眼 ^め がし 眼 ^め 鼻 ^び 眼 ^め 星 ^{せい} 眼 ^め やに 眼 ^め 鏡 ^{きよう} 眼 ^め 先 ^{さき} 一 ^{ひと} つ 眼 ^め 白 ^{しろ}	球 ^{たま} 13 球 ^{たま} 車 ^{くるま} (柔 ^{じゆう} 道 ^{だう} の技 ^ぎ) 球 ^{たま} 捌 ^は き ガラ ^{がら} ス球 ^{たま}	居 ^お る 29	手 ^て 許 ^{もと} 枕 ^{まくら} 許 ^{もと} 足 ^{あし} 許 ^{もと} 国 ^{くに} 許 ^{もと} 心 ^{こころ} 許 ^{もと} ない	挙 ^あ げる 20 挙 ^あ 句 ^く 2 挙 ^あ る 1 挙 ^あ る 1	魚 ^{さかな} 16 魚 ^{さかな} 篇 ^{へん} (料 ^{りよう} 理 ^り の本 ^{ほん} の篇 ^{へん} 名 ^な) 魚 ^{さかな} 屋 ^や

経 ^ち	兄 ^い	空 ^{から}	故 ^{ゆえ}	固 ^{かたい}	後 ^{あと}	表外音訓	。印は教育漢字
+	+	+	+	+	+	使用度数	多い(+) 少ない(-)
○	+	+	○	+	+	使用範囲	広い(+) 狭い(-)
-	-	+	-	-	+	熟語構成度	高い(+) 低い(-)
○	○ ^(姉)	○	○	+	先 ^前	対義語	ある(+)
○	○	○	○	+	○	名詞の訓、語幹を 同じくする別訓	ある(+)
○ ^へ	○ ^{あに}	-	+	+	-	同字異訓	ない(+) あり、かつ難読を生じやすい(-)
○ ^立	+	+	+	-	+	異字同訓	ない(+) あり、かつ使用上区別しにくい(-)
○	○	○	-	○	○	かな書きの原則	該当する(-)
○	+	+	+	+	-	漢字で書かれるわり あい(ひらがなに対して)	高い(+) 低い(-)
0	3	4	2	4	3	1～9項のプラス・マイナスをかりに合計した数	
390	94	251	100	59	1076	字の総使用度数	
22/1	15/1	18/8	18/1	19/1	68/10	音訓使用度数(左上)と異なり語数(右下)	
経 ^つ 22	兄 ^{さん} 15	空 ^拭 き 空 ^シ ャ 空 ^振 ッ 空 ^タ ー 空 ^廻 リ 空 ^ッ 風 空 ^つ ぽ 空 ^手	故 ¹⁸	固 ^い 19	後 ^ず さ 後 ^へ 始 後 ⁵⁷ 末 後 ^染 後 ^味 後 ^払 後 ^が え 後 ^廻 し 後 ^作 後 ^戻 り 後 ^産	語とその使用度数	

(「現代雑誌九十種の用語用字」に基づく。)

〔番外6〕音訓検討表に基づいて各委員が判定した結果の表（抄）

	以 ^い	為 ^な	下 ^げ	家 ^か	華 ^わ	画 ^え	我 ^が	開 ^{ひら}	街 ^{まち}	格 ^{かく}	乾 ^く	眼 ^め	球 ^{たま}	居 ^ゐ	許 ^{もと}	拳 ^{こぶし}	魚 ^{いさな}	経 ^へ	兄 ^{あに}	空 ^{から}	故 ^{ゆゑ}	固 ^{かた}	後 ^{あと}
ア	×	×	○	○	△	○	×	○	○	×	○	○	○	×	×	×	○	△	○	○	△	○	○
イ	×	×	×	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	△	○	×	○	○	×	○	○
ウ	×	×	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	△	×	×	△	×	×	○
エ	×	△	×	×	△	△	×	○	△	○	○	○	△	×	×	×	△	×	○	○	×	×	×
オ	×	×	○	△	○	○	×	○	○	△	○	○	○	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○
カ	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
キ	△	△	△	△	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	△	○	○	○	○	○
ク	×	×	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○
ケ	×	×	×	△	△	△	○	○	○	○	○	△	○	×	△	○	○	×	○	○	△	○	○
	1	2	6	4	3	4	3	8	7	6	7	7	7	1	1	2	7	1	8	8	5	7	8
○	1	2	1	4	3	2	1	3	1	1	1	1	1	1	2	3	2	2	1	1	2	2	1
△	8	7	2	1	3	3	5	1	1	2	2	1	1	8	6	4	2	6	1	2	2	2	1
×																							

。印は教育漢字

書／読
左は書く立場からの判定。
右は読む立場からの判定。

○…採用したいもの。

×…採用したくないもの。

△…どちらともいいえないもの。

注：左の欄外の「ア」～「ケ」は、各委員を示す順は不同である。

書く立場からの判定の集計。

〔番外7〕 新聞社等の用語用字(熟字訓的なもの)の例一覧(抄)

記号の説明

新：日本新聞協会 新聞用語集 (42.6) —— カッコ内は、発行年月。

朝：朝日新聞社 新聞用語の手びき (39.3)

毎：毎日新聞社 毎日用語集 (42.5)

読：読売新聞社 読売スタイルブック (42.4)

産：サンケイ新聞社 サンケイ用語集 (39.10, 41.10 一部改定)

共：共同通信社 新・記者ハンドブック (42.5)

放：日本放送協会 NHK 用字用語辞典 (40.6)

会… {衆議院
参議院} 記録部 国会会議録用字例 (38.3)

○：当該語について、漢字による表記が認められている。

×：当該語について、漢字による表記が認められていない。

無印：当該語が掲げられていない。

(熟字訓)		新	朝	毎	読	産	共	放	会	備	考
あした) あす	明日	×	○	×	×	×	×	×	×		
あま	海女	○	○	○	○	○	○	○	×		
いおう	硫黄	×	○	○	×	×	×	×	○		
いくたり	幾人								○		
いなか	田舎	×	○	○	×	×	×	×	×		
おじ	叔父	×	○	○	×	×	×	×	×		
	伯父	×	○	○	×	×	×	×	×		
おじいさん	お祖父さん	×	×	×	×	×	×	×	×		
おしろい	白粉	×	○	×	×	×	×	×	×		
おととい	一昨日	×	○	×	×	×	×	×	×		
おとし	一昨年	×	○	×	×	×	×	×	×		
おとな	大人	×	○	○	×	×	×	×	×		
おば	叔母	×	○	○	×	×	×	×	×		

		新	朝	毎	読	産	共	放	会	備	考
おば	伯母	×	○	○	×	×	×	×	×		
おばあさん	お祖母さん	×	×	×	×	×	×	×	×		
かぐら	神楽	×	×	○	×	×	×	×	×		
かし	河岸		○					○	○		
うおがし	魚河岸	○	○	○	○	○	○	○	○		
かたぎ	気質	×	○	○	×	×	×	×	×		
かや	蚊帳	×	○	×	×	×	×	×	×		
かわいい	可愛い	×	○	×	×	×	×	×	×		
かわせ	為替	○	○	○	○	○	○	○	○		
きのう	昨日	×	○	×	×	×	×	×	×		
きょう	今日	×	○	×	×	×	×	×	×		
くだもの	果物	×	○	○	×	×	×	×	×		
けさ	今朝	×	○	×	×	×	×	×	×		
ことし	今年	×	○	×	×	×	×	×	×		
さゆ	白湯				×			*	×	○	* さ湯
しぐれ	時雨	×	×	○	×	×	×	×	×		
しない	竹刀	×	○	×	×	×	×	×	×		
しみず	清水	×		○	×			×	○		
すもう	相撲	○	○	○	○	○	○	○	○		
たち	太刀	×	○	○	×	×	×	×	○		
たなばた	七夕	×	○	○	×	×	×	×	○		
たび	足袋	×	○	×	×	×	×	×	×		
ついたち	一日	×		×		×	×	×	○		
つゆ	梅雨	×	○	×	×	×	×	×	×		
とえはたえ	十重二十重								○		
とけい	時計	○	○	○	○		○	○	○		
なごり	名残り	×		○	×	×	×	×	×		
なだれ	雪崩	×	×	○	×	×	×	×	×		
なにわぶし	浪花節	×	×	×	×	×	×		○		

		新	朝	毎	読	産	共	放	会	備	考
はたち	二十				×			○	○		
はつか	二十日				○			×	○		
ひとり	一人		○	○		○	○	×	○		
ひより	日和	*	○	○	×	×	×	×	×	* 日より	
ふたり	二人		○	○		○	○	×	○		
ふつかよい	宿酔	×		*	×	×	×	×		* 二日酔い	
ふぶき	吹雪	×		○	○	×	×	○	×		
へた	下手	×	○	○	×	×	×	×	×		
むすこ	息子	×	○	○	×	×	×	×	×		
めがね	眼鏡	×	○	○	×	×	×	×	×		
もみじ	紅葉	×	○	×	×	×	×	×	×		
よせ	寄席	○	○	○	○	○	○	○	○		
よったり	四人								○		
わせ	早稲	×	○	○	×	×	×	×	×		

(注) 朝日新聞社「新聞用語の手びき」には、次のような趣旨の注意書きがある。

たとえば、「いなか」は「田舎」,「たび」は「足袋」としてよいが,「いなか」「たび」と書くことをさまたげない。

また,たとえば,梅雨,紅葉の場合,「つゆ,パイウ」「もみじ,コウヨウ」のいずれの場合にも漢字書きしてよいが,「つゆ,もみじ」と読む場合は,かな書きが望ましい。

日本放送協会「NHK用字用語辞典」には,次のような趣旨の注意書きがある。

次の語はかな書きを原則とするが,数字をきわだたせたい場合には算用数字を使う。

<例>

1人(ひとり) 2人(ふたり)

1日(ついたち) 2日(ふつか) 20日(はつか)